

## 平成22年度第4回（第16回）幸町地区学校適正配置地元代表協議会 議事要旨

**1 日 時** 平成23年1月29日（土） 午前10時～12時

**2 場 所** 幸町公民館 ホール

### 3 出席者

(1) 委 員 13名

うち代理出席2名：上村委員代理足立氏（千葉幸町東住宅自治管理組合会事務局長）、  
小池委員代理西宮氏（幸町第二小学校PTA副会長）

欠席2名：蟹江副会長、山内委員

(2) 事務局 高須課長、加茂主査、山崎主査補、安井主査補、松木主任主事

(3) 傍聴者 2名

### 4 報告・議題等

(1) 【議題1】小学校の統合時期について

(2) 【議題2】小学校の統合場所について

(3) 【議題3】次回開催日時・場所について

### 5 会議資料等

(1) 次第・席次表

(2) 平成22年度第4回「協議会」資料

(3) 資料3 幸町地区の小・中学校の校舎等の状況<前回資料>

(4) 資料4 統合の順序・時期について<前回資料>

(5) 学校施設見学会案内

(6) 前回議事要旨

### 6 会議の概要

(1) 【議題1】小学校の統合時期について

平成25年4月となった。

(2) 【議題2】小学校の統合場所について

次回継続協議となった。

(3) 【議題3】次回開催日時・場所について

次回は平成23年3月10日（木）午後7時から9時まで、幸町公民館ホールで、幸町2丁目分科会として開催することとした。

### 7 発言要旨

#### (1) 会長挨拶

<長岡会長>

大変寒い冬になっている。いよいよ当協議会も幸町2丁目に絞られた課題になってきた。ひとつひとつのことを丁寧にやっていかなければならない、場所、時期、跡地の問題など、

将来を見据えた検討が必要だ。急ぐ所は急いで、急ぐ中にも、子どもたちのためにしっかりとした将来像を見つめて進めていきたいと思うので、熱心な審議をよろしく願います。

## (2) 議題

### 議題 1 小学校の統合時期について

<木幡議長>

全体の合意を得なければならないのは、まず時期の問題、そして統合校の位置をどこにするかという問題である。従って、本日は最初に時期について協議を進めたい。ただし、時期の問題が解決しなければ場所を議論しないということではなく、本日全ての結論が出なければ次回に持ち越すということで一定の時間を区切って両議題の協議を進めていきたいが、よろしいか。では、初めに「小学校の統合時期について」を議題としていきたい。

まず、事務局から関連する資料の説明をお願いします。

<事務局>

(平成22年度第4回協議会資料のうち「1 3校統合の進め方について」及び「2 統合時期の考え方について」を説明)

<木幡議長>

「2段階統合方式」を採用するのか「3校同時統合方式」を採用するのかは、統合場所を協議する中で確定することとして、ここでは統合時期、すなわち「2段階統合方式」でいうところの「①第一段階」、「3校同時統合方式」でいうところの「①統合初年度」をいつとするのかを協議する。

また、第四小がアンケートを行ったそうなので、それについても報告をお願いします。

<木村委員>

昨年末に第四小で行ったアンケートの結果を説明する。第四小としては「統合時期を早くしてほしい」という結果になった。回収率が48.6%と低かったが、これは話し合いに時間がかかっているので「本当に統合できるのか」という気持ちになっている保護者が多いことの現れかと思われる。場所は「自分の学校がいい」という意見が43.2%と最も多いが、施設等の状態から第一小が良いという意見も32.4%出ている。

<木幡議長>

ご意見、ご質問はあるか。

<上村委員代理足立氏>

準備期間は1年半～2年が妥当かと思う。第四小の校長と話したが、第四小が統合校となった場合にどうかと聞いたところ、かなりの改修が必要だという話だった。その場合、どの程度の改修・増築が必要か、期間はどの程度かかるのかが問題だろう。また、予算の話もあるので、それを入れると3年かかることもあるかもしれない。早く統合したい中で、それはどうだろうか。すべての学校を並列で考える必要があるだろう。

<巖倉委員>

何はともあれ、今、第四小の状態からはパターン2は考えられないので、パターン1で第四小をどうするかということを考えなければならない。統合時点でどこの学校に行くか。統合時期は、改築の時間を入れると23年度は無理だろうから、24年度ということになるだろう。

<事務局>

誤解があるようなので、説明させていただく。

統合校をスタートする時点で学校の改修が済んでいるということではない。例えば真砂第二小と真砂第三小の統合校である真砂西小の場合、真砂第二小を仮校舎として開校して、その間に統合場所となる真砂第三小の改修をする。真砂第三小の改修は1年程度で終わる予定なので、1年後、開校翌年に真砂第三小の位置に移る。つまり、統合時期については、統合場所の改修にかかる時間を考える必要はない、ということをご理解いただきたい。

<巖倉委員>

統合の準備期間で、統合の要望書提出と準備会設置に分かれてくる。要望書の提出は極端な話今年の3月でもいいが、準備会設置は9月でも10月でも構わないということで、準備が進めばいい。そうしたら今の第四小をどうするか、ということだ。第四小の場所に限らなくても、第一小か第二小の場所にでも、とりあえず統合しないと学校として魅力あるものにできないということであれば、第四小をまず考えなければいけないと思う。

<木幡議長>

本日の議題は、3校の統合時期と、場所をどこに置くかということだ。時期と場所が決まれば、パターンも決まり、要望書の提出もできる。本日は、第四小を優先するとかいうことではなく、3校の統合について時期と場所を議論していただきたい。

<外山委員>

統合は早く、というのが大前提だろう。当初は今年の4月に統合してもいいのではと思っていたが、それにはもう時間が無い。年度途中ではなく4月に統合と考えると、24年4月統合、準備期間が一年程度でもいいのではないかと思う。

<巖倉委員>

学校の改修がある。統合と開校は別に考えていいということか。

<木幡議長>

事務局にもう一度説明をお願いします。しっかり理解したほうがいいので、時間をかけて説明したほうがいいだろう。

<事務局>

真砂西小を例に説明したい。真砂第二小と真砂第三小が23年4月に「真砂西小」として統合・開校する。そのときは、真砂第二小を仮校舎とする。そのため真砂第二小の校舎は、22年度に夏休み等の長期休暇を使って安全上必要な最小限の修繕を行った。真砂第三小は、23年度に空っぽになってから改修をして、それが済んでから、子どもたちが真砂第三小に移動する。

真砂西小の場合は22年度以前、21年9月に要望書が提出された後、統合を市として決定し、22年度の真砂第二小修繕の予算要望を行っている。例えば、仮校舎となる学校が修繕不要であれば統合の2年度前に予算要望する必要はないが、修繕が必要であれば予算要望が必要なので、統合年度の2年度前の予算要望時期である9月以前には統合の要望書を出していただく必要がある。

それに加えて、統合前に子どもたちが交流する期間を十分にとる必要もある。校外学習を一緒に行ったりするわけだが、それについても前年度に「次の年度の行事をどうするか」を決めるので、統合する学校と一緒に行事予定を考える必要がある。千葉市の最初の統合校である花島小の場合は、準備期間が1年しかなかったので、十分に交流行事を行うこと

が出来なかった。その反省を踏まえて、それ以降の統合では十分に時間を取って交流するようにしている。また、保護者会についても統合に際して規約や予算について詰めていく準備が1年では短い、ということが経験上分かっている。

<巖倉委員>

もう23年度の改修予算はとれない。ということは、仮校舎の修繕をするのは、今後予算要望ができる24年度ということだろう。

<小池委員代理西宮氏>

P T Aにも準備期間が必要だ。規約改正する話を今度行い、来年度に改正の話し合いを始める。その後に他の学校とすり合わせが出来ると思うので、統合は25年度がいいと考えている。

<木幡議長>

24年4月か25年4月、どちらがいいか。

<八島委員>

市P連の集まりの際に、高洲地域の話で、統合に際してのすり合わせが大変なこと、中学校の話だが部活での交流会も必要ということなどを聞いているので、準備期間が1年というのは短いように思う。25年4月が一番早いのではないか。第四小は人数が少ないので早く統合したいのだろうと思うが、それまでに交流等の機会をたくさん持つことでどうだろうか。

<木村委員>

第四小は来年度の新1年生が8名である。そういう状態であるので、統合は25年4月でも構わないので、球技大会や農山村留学などの行事関係で、出来るものは、24年度から3校同時に行ってもらえるといいと思う。

<八島委員>

第一小と第四小は行事を一緒にしているものがあって、農山村留学も6年生が一緒に行った。ただ、現在は高学年しか一緒に行事が無く、高学年の子どもたちは統合時には卒業してしまう。統合に関わってくる低学年の子どもたちの交流が少ないので、そういった場を設けていければ、24年統合はやはり準備期間が短いので、25年統合がいいと考える。

<事務局>

交流事業やすり合わせについて話すのが統合準備会である。地元代表協議会で合意が成されて統合時期や場所が取りまとめられてから統合準備会を結成するが、そこには統合校の教師も入って協議しながら考えていく。

<木幡議長>

25年4月の統合が妥当だろうという意見が多い。それを前提にして、該当する3校が今から交流の機会を増やすことをやって欲しいということだろう。それは統合準備会を設置して云々、とは別として発言されていると思う。

<巖倉委員>

正式には申請を出して、それからだろう。まず申請がある、それをいつ出すかが問題だ。申請は早くて構わないだろう、それを出して統合が具体的になる。現在は、あくまで統合を決めたのはこの会議の中であって、教育委員会は申請が出されて初めて統合に動き出す。今一番心配しているのは第四小の新入生が8人で、23～24年度はそれでいいのか、ということである。第四小の処遇をまず早急に、パターン1のような形で考えなければなら

ないのではないかと。まず先に申請をいつにするか、それによって改修などの予算も取れる。

<事務局>

統合時期、場所、組み合わせ、付帯するものなど、この会で決定した内容を文書化して提出していただく、それが統合に関する要望書であるが、要望書を提出していただいた後に市として統合についての決定をする。正式に決定した後にオフィシャルな統合準備が始まるが、その前に出来るところで交流行事等始めるのは問題ない。

例えば高浜地域の場合だが、22年3月に統合の要望書が出てから、4月に市として統合の意思決定を行った。統合準備会の設置は、あまり早くても間延びしてしまうところがあったので要望書提出の6ヵ月後である9月になったが、それ以前に学校同士・保護者会同士での交流は始めていた。

<巖倉委員>

従って、統合は決定しているわけだから、3月にでも文書ができれば、ここで決定したことを要望書に出してしまう、そこからスタートだ。それとは別で、第四小はどうするか、そういう問題が緊急にあるのではないかと。あるならば今度の4月が間に合うなら、4月からの2校統合もありえるのではないかと。

<木村委員>

第四小が希望している「統合を早くして欲しい」というのはあくまでも「3校統合を早く」ということで、第四小の立場をどうにかして欲しいということではない。第四小だけ今度の4月から移るというのは、子どもたちにも保護者にも負担がかかる。3校同時に統合してスタートしたほうがいいので、子どもたちにも保護者の皆さんにも納得していただけるように説明する。

<巖倉委員>

学習指導要領が変わるということが新聞に出ていた。それで第四小はやっていけるのか心配になり、第四小を早くと思ったのだが、そういうことであれば、私の今の意見は取り下げる。

<木幡議長>

整理するが、3校の統合をいつにするかという時期をこの協議では確認したいということだ。これまでの協議の中で、3校を統合することが合意された。3校のうち、どこか二つを先に統合するといった議論は出ていないので、それについて協議することになると、新しい問題を協議するかどうかということになる。本日そのことについて発言された委員も取り下げたので、このまま3校統合の時期をいつにするかという協議を進めたい。

<巖倉委員>

パターン1は最初から否定するということか。

<上村委員代理足立氏>

議長が言っていることは、そうではないだろう。最終的には統合するが、パターン1か2かという議論はこの次の段階で話し合うことにして、まず今は統合時期をいつにするか、その次は統合場所を、という進め方にするという話だろう。

<木幡議長>

これまでの合意では、第四小が大変だから先に第四小とどこかを統合しましょう、それから別の所と統合しましょう、という経過では無かった。だから3校統合の時期、つまりゴールをどこにしようかということをも確認して、そこにいくまでの過程の中でどうい

うパターンを取るかということが場所との関係も含めて決まるのではないかということが教育委員会からの提起であり、またそれを受けてそういう議論をしたいということで進めている。

<巖倉委員>

3校が一緒になる統合時期は決められる、しかし、それまでに、時期を決めた上でパターンがあるという話だろう。

<布施委員>

今話しているのは、3校同時統合のゴール地点をいつにするかということだろう。それであれば議長がおっしゃるように進めることでいいだろう。

<細谷委員>

結局、今、一番早いのは25年4月統合ということだろう。パターンを考えると3校同時の場合、修繕が大きな規模になるだろう。だから、3校が一緒になるのが一番早いのが25年4月であるという場合に、3校同時でも2校先行でも間に合うのだろうか。時間や費用のかけ方が変わってくるのではないだろうか。

<事務局>

議長が仰るように、場所との関係もあるので具体的な部分は後で考えましょうということだろう。例えば25年4月に開校とする場合、3校同時統合方式の場合はどこかを仮校舎にして25年4月に3校同時に一緒になる。2段階統合方式は、25年4月にまず2校が一緒になり、残った1校が後から入る、合併吸収されるというイメージになる。それはどこを統合場所にするかということや、どこを仮校舎にするかということも決めなくてはいけない。今、それを協議すると整理がつかないので、まずは新設校が開校する時期をいつにするかを協議するというのが、議長の整理だろう。

<木幡議長>

そのとおりである。

<巖倉委員>

今の話であれば、それでいい。

<木幡議長>

統合時期についての協議を続けたい。24年4月という意見もあるものの、概ね2年程度の準備を持って25年4月スタートを目指すというのが大勢の意見であると思う。外山委員、いかがか。

<外山委員>

スピードが大切だと思う。子どもたちの環境への適応は早いと思うので、統合は早ければ早いほうがいいと思い24年4月と発言した。ただ、市の予算等の流れがあるだろうから、皆さんの合意もあれば25年度ということでも良いと思う。

<鈴木委員>

確認だが、仮校舎でのスタートが開校と考えてよろしいか。

<事務局>

そのとおりである。

<鈴木委員>

統合は25年4月頃がいいと思うが、他の地区を見ると今までに3校統合は無い。統合するにあたって、十分な準備期間を設けたいということが、25年4月までに子ども

たちの交流事業などがどれだけできるのかが心配である。後から「慌ただしかった」といった声が出ないようにしてもらいたい。市としては25年4月開校で大丈夫だと思うか。

<事務局>

準備期間が1年半以上あれば大丈夫だと考える。

<木幡議長>

それでは、統合時期は25年4月としてよろしいか。

<一同> (承認)

## 議題2 小学校の統合場所について

<木幡議長>

次に、小学校の統合場所について協議したい。結論が出るか分からないが、時間が許す限り協議を行って、結論が出ない場合は次回に持ち越すということで進めたい。

事務局から関連する資料の説明をお願いする。

<事務局>

(平成22年度第4回協議会資料のうち「3 小学校の統合シミュレーション」、「4 幸町2丁目の小・中学校の配置の現状」及び「5 統合場所選定の考え方(これまでの例)」を説明)

<木幡議長>

ご意見、ご質問はあるか。

<長岡会長>

第二小に設けられている言語・難聴4学級には幸町以外の子どもも来ているのか。

<事務局>

幸町以外の学校からも来ている。通級のようなかたちで運営しており、市内にこのような施設は幸町第二小以外に例えば院内小がある。具体的には、普段生活している学校から、週1～2回、必要な時間帯だけ、幸町第二小の言語・難聴の学級に通って指導を受ける。

<長岡会長>

3校統合する場合に、その見直しがあるのか。

<小池委員代理西宮氏>

第二小もそれを懸念している。言語・難聴学級に通う児童は保護者が車で連れてくるが、駐車しやすい場所になるのか心配する声を聞いている。

<長岡会長>

現段階で、教育委員会では検討課題には入っているのか。

<事務局>

具体的な提案のない現段階では、現状どおりである。

<長岡会長>

今後の課題だろう。

<木幡議長>

第二小には他の学校にない施設があるということだろう。

<事務局>

そのとおりである。

<亀田副会長>

資料を見ると、他の学校はすんなりと統合場所を決めたように見えるが、いろいろ問題はあったのか。

<事務局>

それぞれ激論があった上での最終的な決着だ。自分たちの学校や地域に思い入れがあることは否めないで、最終的に子どもたちにとってどこがいいのかを考えて決したということだ。

<木村委員>

仮に第四小が統合場所になった場合、非常に大規模な改修が必要になると思う。そこで聞きたいのは、緑町小が校舎を建て直しているが、なぜ改修でなく建て替えになったのか。

<事務局>

市では学校の耐震補強を進めているが、緑町小と松ヶ丘中は補強を行っても必要な強度にならないことが分かったので、安全上全面改築せざるを得ないということで、改築することになった。

<布施委員>

3つの小学校を候補にするにあたり、確認したい。第四小は2年ほど前に渡り廊下がひび割れて落ちそうになって工事をしたこともある。かなり老朽化が進んでいるが、耐震性等の状況はどうなっているのか。

<事務局>

資料にあるとおり、耐震精度が基準を下回る校舎も補強によって耐震性は保たれるレベルであると考えている。

<長岡会長>

これから統合場所をどこにするかが大切だが、協議にあたって「あそこにしたらお金がかかる」「かからない」ということは無く、協議会で決まれば、教育委員会はその大規模改修する、ということだろう。「改修するお金が無いから、統合場所をこちらにしてくれ」ということは無い、というのが大前提だ。

<事務局>

そのことについては、今の段階で具体的なものが見えていないので、答えは控えさせていただきます。

<長岡会長>

好きなところを選びなさい、と言っておいて、後になって予算がないから出来ないということにはならないようにしてもらいたい。

<事務局>

好きなところという言い方よりも、子どもたちのことを考えて、様々な角度から、より適切な場所はどこかを協議していただき、具体的なイメージが出てくる中で、どのような工夫ができるのかについても考えることができるだろう。まずは、いろいろな視点で考えていただきたい。

<木幡議長>

今日は統合場所を決めることは出来ないだろう。まずは資料の説明を受けたということだ。場所の選定においてはいろいろな角度で、総合的に協議する。一番大切なのは子どもたちにとってどこが一番いいのか、ということだ。協議の柱になるのは「子どもたちにと

って、どこに学校を置いたらいいのか」ということ、という点をこの場で確認したい。

<一同> (了承)

<木幡議長>

具体的にどうするかは次回以降、ということで、各自所属団体の意見を集約したうえで次回の協議をお願いしたい。

### 議題3 次回開催日時・場所について

<木幡議長>

年度内にもう一度、開催したい。次回は3月10日、木曜日、午後7時から9時まで、会場は本日と同じ幸町公民館ホールで、幸町2丁目分科会として開催することとしたいが、よろしいか。

<一同> (異議なし)

<木幡議長>

3月の協議会前に施設見学会を開催したいので、事務局に説明をお願いしたい。

<事務局>

(資料「学校施設見学会案内」について説明。)

見学会の日は学校の授業があるため、あまり大勢の見学はご遠慮いただきたいが、PTAなどでは会長さんだけでなく、副会長さんも参加したいということがあれば、団体で2名程度は参加可能である。

また、せっかくの機会なので、幸町2丁目にある学校施設を見学するというので、小学校だけでなく第一中も見学させてもらうことにした。

<鈴木委員>

何か持ってきたほうがいい資料はあるか。

<事務局>

特に資料を持ってきていただく必要はない。当日は学校の図面を用意するので、それを見ていただければと思う。

<木幡議長>

これにて議事をすべて終了する。ご協力感謝する。

### (3) 諸連絡

<事務局>

○議事要旨について、後日委員の皆さんには案を送付する。訂正等あったら期限までに返送をお願いしたい。返送がない場合は変更なしとみなす。

○欠席の場合は事前に、できるだけ前日までに電話等でご連絡いただきたい。代理出席の場合も事前にどのような立場の方が代理出席するのか、たとえば「会長の〇〇の代理で副会長の□□が出席する」ということを願います。

○幸町2丁目分科会としての開催であるが、資料と議事要旨については、幸町1丁目に関係する委員の皆様へも送付し、情報は途切れないようにしていく。

#### (4) 閉会

<長岡会長>

熱心な議論、感謝する。少し前進したように思う。エンド（統合時期）は決まった。3校の交流が大切だということも確認した。各学校の先生の尽力・苦労は大変なものだと思うので、教育委員会には3校交流がきちんとできるようにお願いしたい。また、人事異動についても、異動が大量な傾向にあるが、統廃合に当たって先生方の人事に十分な配慮をお願いしたい。委員の皆さんには、学校見学会等をしながら、どの場所がいいか考えてもらって、次回に十分話し合いをお願いしたい。